

活動の記録

12月5日(日)曇

12月5日の定例活動日は南関東の紅葉シーズンに合わせて設定されたものです。

紅葉の美しさは夏の日照、秋の台風、直前の冷え込みなどの気象条件が複雑に影響して、毎年同じではありません。今年の紅葉は皆さんいかがだったでしょうか。

台風とナラ枯れの危険木処理が気懸かりで、上ばかり見ていて紅葉どころでは無かったと言う方もいた事と思います。

島内ではチェーンソー部隊の奮闘で徐々に安全地帯が増えて

いますが、まだまだやる事は山積みですから恒例の豚汁サービスもできませんでした。何はともあれ、事故無く年末を迎えられて一安心です。新年が良い年になるのを祈ります。(坂本)

参加者は伊藤、鶴沢、苅米、久我夫妻、坂本、中田夫妻と智貴・裕士君、成沢、福島、真鍋の13名でした。

○12月も危険木の伐採作業

豊英島の紅葉をチラ見しながら、11月の活動に続いて、島内に安全に活動できるエリアを確保するために、一部の枯死木、危険木の伐採作業を行いました。今回の伐採範囲は、吊り橋から千年広場まで間の広場近くの2本(1本は4本株立ちのうちの1本)と、千年広場の南側7本、島の入り口側5本の合わせて14本です。

伐採作業は、前回と同じように苅米さんをリーダーにロープやチルホールを使って伐採するグループと、久我さん、伊藤さんのグループに分かれてエリアを分けて行いました。

今回の作業ではかかり木になったコナラ(ナラ枯れによる今年の枯死木)にロープをかけて、チルホールでけん引する際に、ロープが破断することがありました。チルホールで引く方もかなり力が必要な状況だったので、もしかしたら切れるかもと思った時のことでした。ロープは破断強度が小さいので、かかり木のけん引は方向や引き方を工夫して無理のない力で引くことが重要だと感じました。



伊藤-久我班の伐採



ナラ枯れのコナラを伐採

ロープをかけチルホールで牽引

力を合わせてチルホールで引く

今後も継続して安全に活動できるエリアを確保するために、引き続き枯死木、危険木の伐採作業を進めたいと思いますのでご協力をよろしくお願いいたします。(福島)

○高校生会員も楽しく参加し戦力に

久しぶりに息子二人連れて君津の千年の森をつくる会に伺いました。

息子たち、また大きくなりました。6歳と4歳だったトモキとヒロシもメンバーの方々と背が変わりません・・というか追い越した方も何人か。

今回は木の伐採のお手伝いもそれなりに戦力にはなっていたようです。高校生の息子たちには結構厳しい指示（力仕事など）が出ていたようですが、それが本人たちには楽しかったようです。

でもやっぱり豊英島にくと、息子たちは子供にもどってしまうんですね。最後の落ち葉集めが一番楽しそうでした。「カブトムシ育つかなー。」と嬉しそうに話すところは以前と全く変わりませんでした。



4歳と7歳のヒロシ君とトモキ君

元気に働くヒロシ君とトモキ君

○豊英島の紅葉



イロハモミジ

エンコウカエデ

オオモミジ

ウリカエデ



ヤマボウシ

アズキナシ

コナラ

カマツカ

○ネジキの紅葉

ネジキは樹皮の振れ模様にちなんだ名前です。初夏には清楚なスズランに似た花をつけます。大木ではないのであまり目立ちませんが、紅葉は赤とピンクが微妙に混じりあった色合いで独特の美しさがあります。写真映えのする株を探して島内の安全地帯を歩くと平坦地には少ない



参考画像) ネジキの花 2011・6. 07



ネジキの紅葉 2021・12. 05

ものの崖際に意外に多く自生していて驚きました。

ネジキは別名カシオシミ（貸し惜しみ？）と言うようですが、その言われが分からないのでPCで検索しても駄目でした。どなたかご存じの方は教えて下さい。（坂本）

（追記）ネジキをカシオシミ（貸し惜しみ）、カシオノキという。カシオノキの語源；本草啓蒙「この枝を炭となし漆塗りの研ぎ出しに用ゆ、この炭をカシオズミと云一」とあり、山城国岩倉の方言にネジキをカシオノキがあることから、カシオで焼いた炭の意である「カシオズミ」→「カシオシミ」となった。（栗山）

本草啓蒙＝本草綱目啓蒙

お知らせ

〇年明けの活動日は第3日曜日の16日です。

新年最初の活動になりますので、参加者全員で祠山に参拝し安全祈願を行います。伐採作業についてはお休みして、安全を確保するエリアと伐採範囲、立ち入り禁止地区の確認、植生保護柵の設置計画、今後の方針について話し合いを行いたいと思います。また、安全に留意しながら島内散策もできればと思います。

なお、活動の際は必ずヘルメットの着用をお願いします。